

御殿山(別名 石薬師官亭)

慶長五年(1600年)関ヶ原合戦で西軍に属した神戸城主滝川雄利は改易となり、東軍に属し功績を挙げた『一柳直盛』は神戸に五万石の所領を与えられ神戸城主となる。

東海道宿場制度が制定され(1601年)、石薬師宿はやや遅れてできた(1616年)がその翌年の元和三年(1617年)將軍の宿泊・休憩にと、神戸城主の一柳直盛が建てたもので『御殿山』と称した。別名石薬師官亭とも云った。

場所は石薬師寺向かい瑠璃光橋手前の『伊藤太郎宅』と『伊藤訓一宅』の北にあった。

元和六年(1620年)將軍徳川秀忠の娘『徳川和子』(東福門院)が天皇家『後水尾天皇』に嫁ぐ際、この石薬師官亭を宿にされたと記録にある。それ以来、將軍家が上洛する度にここで宿泊・休憩され、若松港から鮮魚を取り寄せて接待したという。小沢本陣には歴史上有名な人々が入り出した記録が保存されてる。

將軍関係では元和九年(1623年)家光が三代將軍になった時、父親の秀忠と京都からの帰りこの官亭に立ち寄った事が記されている。寛永三年(1626年)秀忠は江戸を出発し美濃路を通過して京都に着き、帰りは東海道宿場を通り亀山城本丸御殿で泊まり、この石薬師官亭で休憩し、桑名で一泊している。寛永十一年(1634年)將軍家光は江戸を出発し、京都に行った帰りこの官亭に寄り昼休み休憩をしている。

三国地誌によると、元禄九年(1696年)故あって石薬師官亭は廃館になり取り壊されたが、大層眺めのよい所だったと書かれている。

【将軍家光の鯖事件】

この御殿山には逸話^{いつわ}が語り継がれている。

それは寛永十一年(1634年)に将軍家光の一行が江戸に帰る途中、昼の食事に寄った時の事である。家光の昼食に合わせてこの日も若松港から魚が運ばれ、官亭の台所で調理された。数名のお毒味役^{どくみやく}が試食したが異常はなく、その後家光のお膳^{ぜん}に出されたのであった。

7月の鯖^{さば}は腐りやすく、お毒味からお膳を並べる迄の時間で腐っていたのであった。食事後家光は突然腹痛に襲われ、一行は大変な騒ぎになり宿場の旅籠屋^{はたごや}で医師の伊東氏が呼ばれ治療^{ちりょう}をしたそうである。

更に同行していた春日局が、御殿山(石薬師官亭)の北側にある徳川家と同じ浄土^{じょうど}宗^{しゅう}の大日山福寿寺(1631年に願入和尚が建立)の住職^{じゅうしやく}である願入坊和尚^{がんにゅうぼうおしょう}に護摩焚き^{また}を命じ祈禱^{きとう}させたと伝わっている。

(武藤清次・多田愛作)

